

外国語を用いて自分の考えや気持ちを互いに伝え合うことができる児童の育成 ～コミュニケーションを行う目的や場面・状況等に応じた言語活動の設定と工夫を通して～

【教科・領域】 外国語(5年「What time do you get up?」)

令和元年度 前橋特別研修研究員
前橋市立元総社北小学校 奥村 敦

<児童の実態>

- ・発音練習や決められた会話はできるが、自分の考えや気持ちを伝えるコミュニケーションになると、消極的になる児童が多い。
- ・覚えて発表するという意識が強く、思考力や判断力ではなく、暗記力が英語では大切だと感じている。
- ・話したい内容と、それを伝える英語表現を別々に考えているので、思考しながらのやり取り(会話)ができない。
- ・振り返りが、ゲーム的活動の楽しさや勝敗ばかりで終わってしまう。

<指導上の課題>

- ・思考を伴わない学習活動が中心になってしまう。
- ・決まった会話を繰り返させるだけの指導になってしまう。
- ・ゲーム的活動が授業の中心的な部分になる。

【手立て1】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた言語活動の設定

<めあて「マイドリームのために、やっていることを紹介しよう」>

1 あえて会話の表現例を示さずに会話をする。

you, dream, what?

I am teacher. いいのかな?

2 教師のデモンストレーションを通して、会話の流れを考えた後、会話をする。

理由を聞くときは?

さっきより会話ができるぞ!

3 新しく思いついた日課を付け加えて会話をする。

I sometimes run with my father.

チアリーダーは踊るから体力が必要だもんね!

Point

- ① まずは会話してみよう
- ② 全体で共有して会話
- ③ 伝えたいことを加えて

【手立て2】 語彙や表現を積み重ねたワークシートの活用

「My Profile カード」

- ・年度当初から学習内容に合わせ、以下のような内容について英語で書き、蓄積してきた。(誕生日、好きな曜日、食べ物、得意な教科、日々の日課など)
- ・毎授業、手元に置いておき、必要に応じて見ることができるようにした。

表現の幅が広がり、自分の考えや気持ちを話す会話の支えとなった。

手元に置いていつでも見ることができる

【成果】

- 自分たちで模索しながらの会話や全体での共有化、新しい日課の付け加えなど、言語活動の目的や場面、状況等の設定や工夫が、児童の思考を促し、自分の考えや気持ちを伝え合う本来のコミュニケーションに近づけることができた。
- 「My Profileカード」を作成・活用することで、表現の幅が広がり、自分の考えや気持ちを伝え合う会話の支えとなった。また、既習事項の振り返りがしやすくなり、知識の定着にもつながった。

【課題】

- 自分のことを伝えるとともに相手のことに興味をもち、共通の話題でコミュニケーションを行う活動を、より児童主体で取り組めるよう検討していきたい。
- 「My Profileカード」については、毎回追記したり、次年度も引き続き活用したりするなど、今後も形式や使用方法を検討していく必要がある。